神戸市営地下鉄
これまでの取り組み

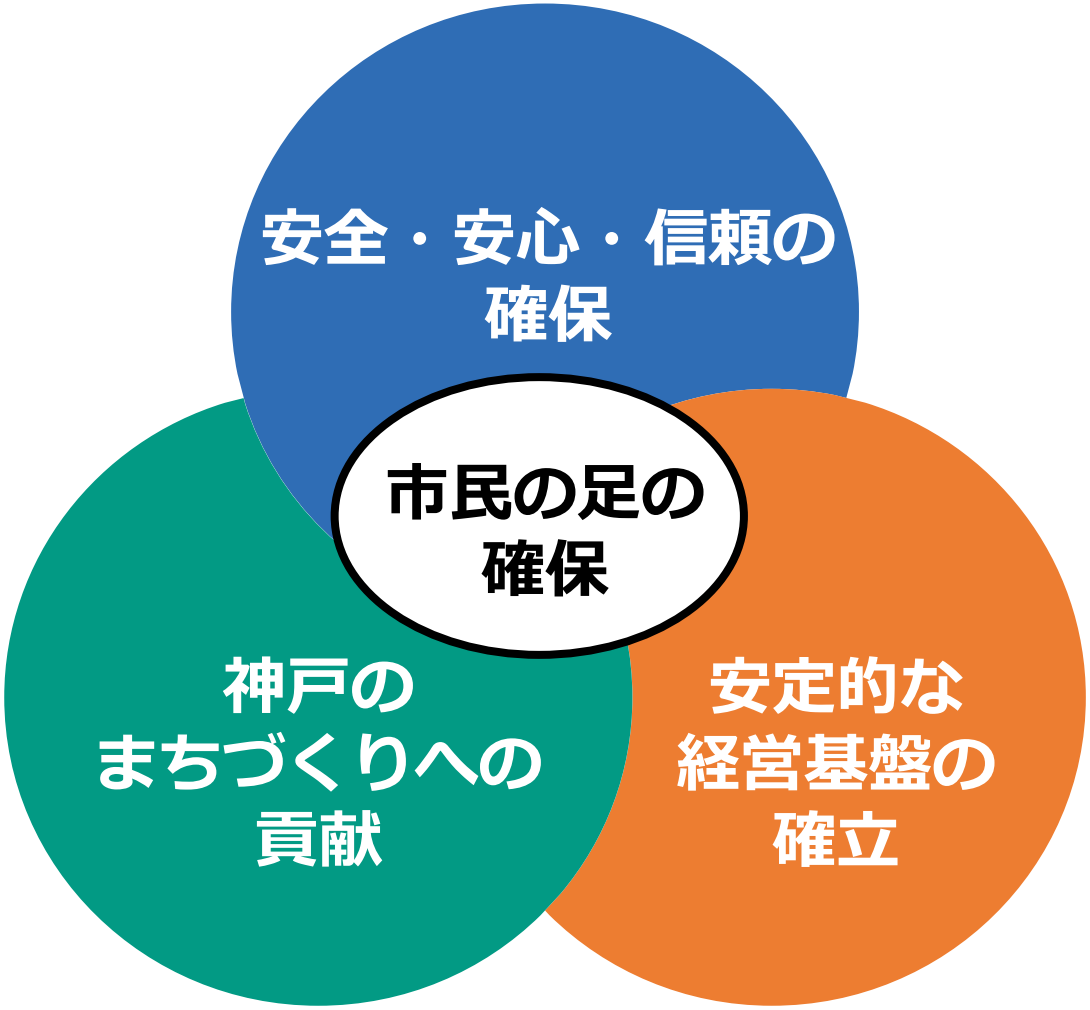
神戸市営地下鉄では、
将来にわたり「市民の足」を守るため、
様々な取り組みを進めてきました。

今回は、その中から代表的な取り組みを
ご紹介します。



神戸市営地下鉄 これまでの取り組み

神戸市営地下鉄では、地下鉄の安全性と沿線の魅力向上を図り、
持続可能な経営基盤を形成しながら、市民の足の確保に取り組んできました。



※神戸市交通局「神戸市営交通事業 経営計画2025」より

安全・安心・信頼の確保

（１）ホームドアの整備

駅ホームからの転落や列車との接触事故を防ぎ、お客様がより安全に利用できるよう、全駅でホームドアの設置を進めています。
西神・山手線、北神線では全17駅に設置済み。海岸線でも2026年9月より稼働を開始し、2027年度の整備完了に向け、全10駅の設置工事を進めています。

（２）ホームと車両間の段差・隙間の解消

ホームドアの設置と同時に、ホームと車両間の段差・隙間を解消する工事を実施しました。車いすやベビーカーをご利用のお客様が、どの車両でも自由に乗り降りできるようになり、ご好評をいただいております。こちらも西神・山手線、北神線では全駅で施工済みであり、海岸線でも工事を進めています。



ホームドア（西神・山手線、北神線）



ホームドア（海岸線）



段差・隙間が解消されたホーム

神戸のまちづくりへの貢献

（１）駅リノベーション

駅を「移動の場」から、まちの魅力やにぎわいを生み出す空間へ。駅ごとの特色を活かしたリノベーションにより、沿線のブランディング強化を行っています。

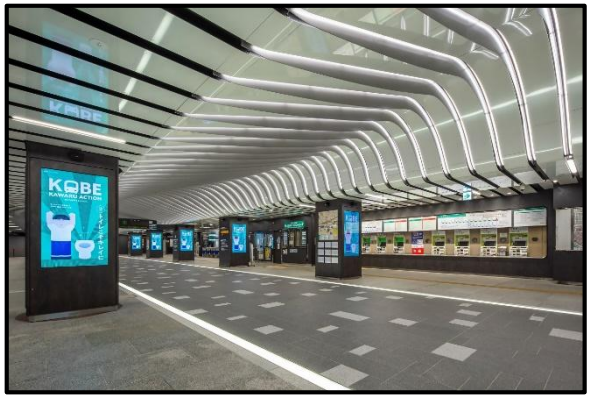
○名谷駅（2022年4月～2025年3月）
駅ビルの美装化と商業機能の充実により、
地域住民が気軽に立ち寄り、ゆっくり過ごせる施設へ

○新長田駅（2022年6月～2024年3月）
駅全体を未来的なイメージに刷新し、地下鉄とJRを
結ぶ乗換拠点にふさわしい、明るく快適な駅へ

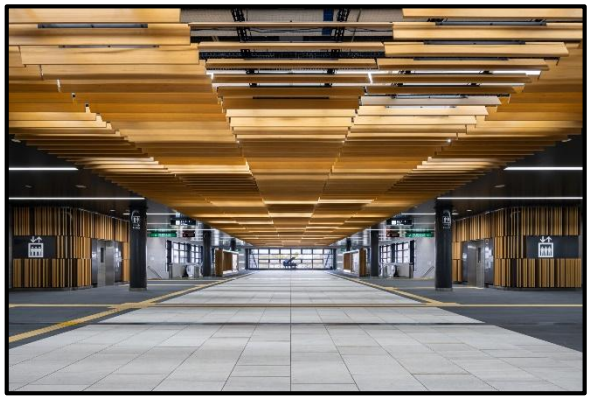
○三宮駅東口（2023年8月～2024年12月）
「国際都市・神戸」の都心にふさわしい、洗練された駅へ

○西神中央駅（2025年2月～2025年9月）
「進化する上質なまち」をテーマに、
兵庫県産木材を使用した温かみと落ち着きのある駅へ

○板宿駅（2025年10月～2027年9月予定）
縦横に広がる商店街の街割りをデザインに取り入れ、
まちとのつながり、地域のにぎわいを感じられる駅へ



三宮駅東口コンコース改札外
「光のランウェイ」



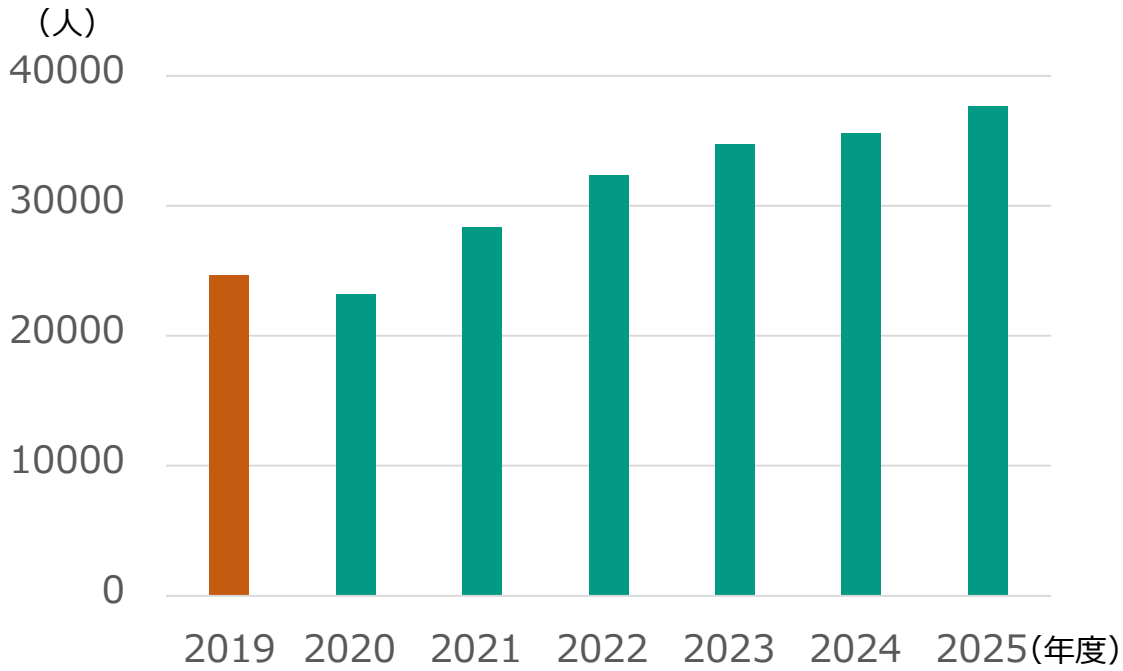
西神中央駅改札内

（２）北神線と市営地下鉄の一体的運行化

北神線は神戸の都心まで約10分という優れたアクセス性を有しますが、運賃が高く利用が伸び悩んでいました。そこで、北神線の運賃低減による利便性の向上と、北区・北神地域のさらなる魅力向上を目的として、2020年6月に北神線と市営地下鉄の一体的運行を開始し、谷上駅から三宮駅までの運賃を550円から280円へ大幅に引き下げました。
北神線の利用者数は年々増加しており、一体的運行の効果が着実に表れています。



北神線市営化のポスター



北神線利用者数推移（１日平均）※

※2019年の（茶軸）は北神急行時代の利用者数
2020年以降（緑軸）は市営化後の利用者数

安定的な経営基盤の確立

（１）全線でのワンマン運転化

今後、乗務員の確保が難しくなることを見据え、2026年1月5日より西神・山手線でワンマン運転を開始しました。これにより地下鉄全線がワンマン運転となり、将来にわたって安定した運行を継続できる体制を整えました。

＜ワンマン運転での安全を支える仕組み＞

①運転士が扉の開閉時にお客様の乗降を確認するためのホーム監視モニターを設置
②車内非常通報装置を乗務員だけでなく、指令所からも応答できるように改良
　さらに指令所からお客様への案内放送ができるように整備
③指令所で全車両の故障発生状況をリアルタイムに監視できるシステムを導入



車内非常通報装置の指令所での応答



ホーム監視用モニター

（２）西神・山手線車両の更新と保有車両の最適化

西神・山手線では複数の車型が活躍していましたが、新型車両6000形へ車型を統一し、車両更新やメンテナンスにかかる総費用を削減しました。
同時に車両運用の効率化を行い、保有車両数を33編成から29編成に見直しました。



西神・山手線、北神線の各車両
左から1000形、2000形、3000形、6000形、7000系

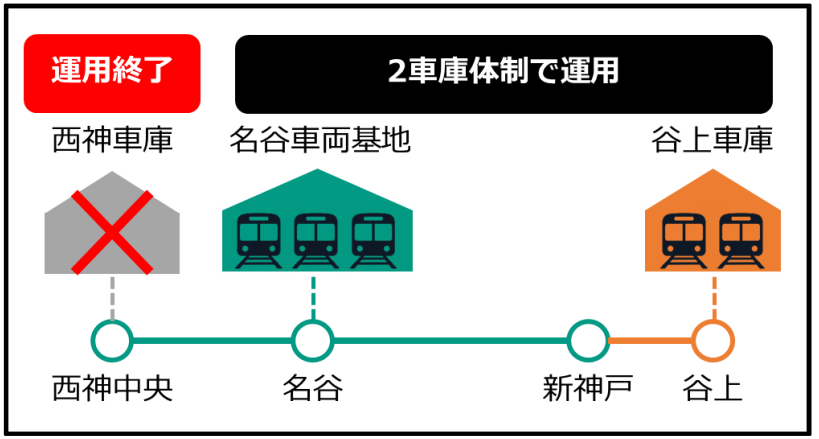
車型統一



新型車両6000形

（３）車庫の統廃合

保有車両数の見直しなどの運用効率化により、これまでの3車庫体制から、名谷車両基地と谷上車庫による2車庫体制での運用が可能となりました。
これにより、2025年3月に西神車庫の運用を終了し、現在は跡地の利活用を進めています。



西神・山手線、北神線における車庫の配置

神戸市営地下鉄を取り巻く課題

以上、これらの将来を見据えた取り組みを推進し、地下鉄の安全性と沿線の魅力向上を図り、持続可能な事業基盤の形成を進めてまいりました。しかし一方で、人材不足や技術継承、物価高騰によるコスト増加など、事業運営を取り巻く課題があります。

人口減少社会の到来

人口減少による利用者数の減少
沿線人口の減少に伴い、地下鉄の利用者数も減少傾向にある

人材確保の困難化
生産年齢人口も減少しており、採用市場での人材確保が年々難しくなっている

大量退職の到来
西神・山手線全線開通にあわせて採用した職員が今後定年退職を迎える

コスト上昇

電気代や建設・保守コストの上昇
エネルギー価格や物価の高騰により、電気代や建設工事・保守点検にかかる経費が増大

インフラの老朽化
地下トンネルをはじめとした施設・設備が更新時期を迎え、多額の費用が必要

新サービス・安全性向上への投資
ホームドア整備やタッチ決済、防犯カメラなど安全性・利便性向上のための設備投資が増加

企業理念「移動に感動を」のもと、これらの課題に向き合いながら、
市民・お客様の足である地下鉄を持続的に運営してまいります。

いつも
移動に感動を

神戸市交通局

